



図書館だより

令和4年7月号
宇都宮市立清原中学校



平和ってなに？

～戦争を知って平和を考えよう～

7月12日は「宇都宮市平和の日」

7月12日～8月15日は「宇都宮市平和月間」

今年2月、ロシアがとなりの国のウクライナに攻め込みました。ウクライナの住民の家や大きな施設が爆撃される様子などの報道に、心が痛みます。宇都宮でも第二次世界大戦中の昭和20年7月12日深夜、大きな空襲がありました。この空襲で約620人もの方が犠牲になりました。清原中のある場所も当時は「宇都宮陸軍飛行学校」だったため、7月12日以降も攻撃されたそうです。

宇都宮市では平和を願い、この日を「宇都宮市平和の日」とし、7月12日から終戦日である8月15日までを「宇都宮市平和月間」と決めました。

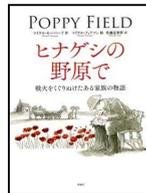
戦争の悲しさやつらさをぜひ本を読むことで感じてください。そして、平和について考えてみましょう。



平和を考えるための図書



『ヒナゲシの野原で
戦火をくぐりぬけた
ある家族の物語』
マイケル・モーパーゴ/著
評論社 933 円



真っ赤なヒナゲシがゆれるのどかなフランダースの野原。昔ここは戦場でした。近くに住むマルテンスのお父さんは戦争が終わって87年もたったのに畑に埋まっていた不発弾のせいで命を落としてしまいます。戦争と人々とのかわりをマルテンス一家の歴史をたどりながら描いた絵本です。モノクロの絵の中でヒナゲシの赤い花がとても印象的です。

『30代記者たちが出会った戦争 激戦地を歩く』
共同通信社会部/編
岩波書店 21 円

(3年生国語の教科書)



第二次世界大戦中にガダルカナル、インパールなどで過酷な戦闘に加わった日本兵の証言を30代の若手記者たちが取材しました。当時、兵士らはどんな状況におかれ、何をして、どのように生き延びてきたのでしょうか。この戦争はなぜ始まり、どのような経過をたどったのかという説明が、現在のロシアの状況と重なります。

『同志少女よ、敵を撃て』
逢坂冬馬/著
早川書房 913 円



今年度の本屋大賞に選ばれて話題になった本です。1942年、モスクワ近郊の農村に暮らす少女セラフィマの日常は、ドイツ軍の急襲により突如奪われます。復讐のため女性だけの狙撃小隊に加わり、激戦地スターリングラードへと向かいます。

☆図書室に平和関連の本を集めたコーナーをつくりました。ぜひ、読んでみてください。
読書感想文にもおすすめです。

🌻🌻🌻🌻🌻🌻 図書室からのお知らせ 🌻🌻🌻🌻🌻🌻

夏休み前特別貸出

7月11日(月)～7月20日(水)
ひとり 10冊まで借りられます。

返却日

8月26日(金)～9月2日(金)

夏休み図書室開館日

7/21(木), 22日(金), 28日(木),
8/24日(水), 25(木)

開館時間 8時30分～11時30分

※本の貸出, 返却のほか, 自習でも利用できます。

🌟🌟🌟🌟 図書委員会よりお知らせ 🌟🌟🌟🌟

本のサマーギフトはいかが? 7月11日(月)～19日(火)

「見つけました!ステキな本」

図書委員会ではみなさんに夏休みに読んでもらいたいおすすめの本を9類(小説)以外の分類から選び「サマーギフト」を用意しました。くじを引いて書いてある番号の袋を借りてください。袋の中の本は借りてみないとわかりません。きっと今までに読んだことがないような本に出会えますよ。

限定45個!早いもの勝ち。なくなり次第終了です。(7/15(金)はありません)



返却ボックスを設置しました。

「本の返却になかなか図書室まで行く時間がない」という意見から、図書委員会で本の返却ボックスを置いてはどうかという提案がありました。さっそく、北校舎3階と2階の廊下に「返却ボックス」を置きました。返す本はふたを開けて箱の中に入れてください。中の本はお昼休みにカウンター当番の図書委員が回収します。



本が寄贈されました



公益財団法人東京応化科学技術振興財団理事長藤嶋昭様より財団推せんの図書18冊が寄贈されました。みなさんがもっと理科に興味をもったり、「あきらめない強い気持ち」や「幅広い知識」を本から学び、感じて欲しいという気持ちで選ばれた本です。ぜひ利用してください。



おすすめです!

「ドミトリーともきんす」高野文子/著 中央公論社 40 夕
植物学者牧野富太郎など日本を代表する有名な科学者たちがもし若いころ同じ下宿屋で暮らしていたら…という楽しいマンガで、彼らに親しみを感じます。